



開館35周年記念特設展「文学はおいしい」 主な資料一覧



会期: 2024(令和6)年7月13日(土)～8月25日(日)⁰⁴

山梨県立文学館

* 印の資料は寄託資料

コーナー

資料名

やまなし・ 葡萄のめぐみ

パネル展示「甲斐八珍果」(『甲斐叢記』前輯一 大森快庵著)	
パネル展示「甲斐名所寿古六」	〈原本 山梨県立博物館蔵〉
パネル展示 甲州街道勝沼宿の場面(仮名垣魯文「身延参詣甲州道中膝栗毛」より)	〈原本 山梨県立博物館蔵〉
芥川龍之介 山本喜誉司宛書簡 1910(明治43)年10月14日(推定)	〈個人蔵〉
石井柏亭「葡萄之図」与謝野寛・与謝野晶子賛 「葡萄より甲斐の山見るむらさきの岩の洞にて海を見るとき 晶子」軸装	
与謝野晶子「むら山に雲みて三日の川の鳴りわれは塵なき葡萄畑ゆく」短冊	*
与謝野晶子「甲斐の秋錦のきれのおかれたる葡萄の畑とこし山の青」色紙	*
窪田空穂「峡川の笛吹かはを越え来ればこの高はらはみな葡萄なる」軸装	
檀一雄「葡萄二皿」水彩画	*
田中冬二「渡り鳥」草稿	
曾根崎保太郎「ミューズの乳を祝福しバッカスの歌を讃めて葡萄を選ぶ」色紙	*
小川国夫「私は葡萄の木だ枯れない葡萄の幹だ」色紙	*
木々高太郎「葡萄」原稿	
木々高太郎「葡萄」切り抜き(「新青年」1942年10月)	
青柳瑞穂「枇杷と桜桃」原稿	
林真理子「葡萄が目にしみる」草稿	

甲州のうまいもの

小川千甕「甲州紀行画卷」	
飯田龍太「梅漬けの種が真赤ぞ甲斐の冬」額装	*
飯田龍太「ほうとう」原稿	
飯田龍太「ほうとう 郷愁の味」校正刷り	
飯田龍太に贈られた幸富講寄せ書き 額装	*
飯田龍太旧蔵 釣り竿「わすれね」	*
熊王徳平「甲州に生きる(三)」原稿	
中村星湖「『ほうとう』と『やきもち』」原稿	

食卓の風景

正岡子規「柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺」句碑拓本 額装	
正岡子規「財布賛」軸装	*
正岡子規「飯待つ間」原稿 複製 原本・虚子記念文学館蔵	
窪田空穂「年の神この松にしも降りませ忝しや真白なる飯」軸装	*
芥川龍之介「芋粥」未定稿	

	太宰治「斜陽」原稿　〈複製　原本・日本近代文学館蔵〉	
	太宰治「斜陽」草稿	
	田中冬二「富士ビューホテルにて」額装	*
	山口誓子「匙なめて童たのしも夏氷」軸装	*
	坪田譲治「うちの良い子はお菓子好きとなりの良い子もお菓子好き 良い子はみんなお菓子好き」軸装	
	芥川龍之介　ヨーグルトの広告文案	
	武田百合子「日々雑記」原稿	
	大庭みな子「舞へ舞へ蝸牛」原稿（第13回「うなぎ」）	
	村田喜代子「鍋の中」原稿	
	高村光太郎「レモン哀歌」原稿　〈複製　原本・日本近代文学館蔵〉	
	泉鏡花「湯島詣」原稿　〈複製　原本・日本近代文学館蔵〉	
お酒のシーン	堀口大樹「酒の粕とは言にこそ」色紙	
	井伏鱒二「勧酒」対幅　〈複製〉	
	井伏鱒二「十一屋の若旦那」原稿	
	檀一雄「おめざの要る男」原稿	
	太宰治　熊王徳平宛はがき　1944（昭和19）年9月10日	
	熊王徳平「その墓に酒打ちかけよ桜桃忌」色紙	
	山本周五郎「青べか物語」原稿（第27章「毒をのむと苦しい」）	
	与謝野晶子「法隆寺など行く如し甲斐の御酒春鶯囀のかもさるゝ蔵」軸装	*
	大吟醸「春鶯囀のかもさるゝ蔵」酒瓶　萬屋醸造店	
	清酒「方代」酒瓶　齋彌酒造店	
	清酒「方代」酒瓶　笹一酒造株式会社	
	吟醸酒「右左口路」酒瓶　大冠酒造株式会社	
	「周五郎のヴァン」ワインボトル　中央葡萄酒株式会社	
	林真理子記念ワインボトル　原茂ワイン株式会社	
	林真理子「葡萄物語」草稿	
料理する作家たち	檀一雄旧蔵ワインボトルの籠と湯呑み茶碗	*
	檀一雄「静物」水彩画	*
	檀一雄「酢・油」水彩画	*
	写真パネル　佐藤真樹撮影　今川焼「夢屋」店内の深沢七郎	
	横尾忠則デザイン「夢屋」ポスター	
	赤瀬川原平デザイン「夢屋」包装紙	
いのちを食えるとい うこと	宮沢賢治　保阪嘉内宛書簡　1918（大正7）年5月19日	*
	宮沢賢治「永訣の朝」原稿　〈複製　原本・宮沢賢治記念館蔵〉	